

令和4年度

地域と学校の連携・協働推進フォーラム

令和4年12月7日(水)美喜仁桐生文化会館で開催いたしました。本事業は、学校・家庭・地域のよりよい連携・協働の推進をテーマに開催し、今回で19回目の開催となりました。複雑・多様化した現代社会の様々な課題を解決するため、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進がもたらす効果を事例発表から情報共有したり、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校・家庭・地域・行政のそれぞれの役割について共通理解を進めたりすることを目的としています。本事業の内容等については以下のとおりです。

講演及びワークショップ

「地域のバトンをつなぎ続けるために」

～コミュニティ・スクール導入15年の三鷹市の現場から～

文部科学省CSマイスター四柳 千夏子氏を講師にお迎えしました。四柳氏は、現在三鷹市の地域学校協働活動コーディネーターとして長きに渡り御活躍されています。その経験を生かした、具体的で実践的な御講演とワークショップを行っていただきました。



事例発表「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

の一体的推進を目指して」

事例発表では、館林市立第十小学校長 小林秀夫氏から、コミュニティ・スクールである第十小学校と西公民館との連携・協働の事業や、防災教育を中心とした、地域との連携・協働の事例など大変貴重な取組について、映像等を交えながら御発表いただきました。



【参加者の声】

○CSの学校側の見方と地域の方の見方の両面からアプローチする貴重な講演だった。目標を共有する話し合いの場を大切にする必要があると感じた。

○CSの必要性を強く感じている。学校運営に積極的に関わっていただけのような方の人選を・・・と構えずに、身近なPTA本部さんやPTA会員さんと学校側とで“座談会”のようなものを開くことから始めるのも一法かなと感じている。参考になることが多く、参加して良かった。

○CSは学校をベースにした地域活性化につなげられると思う。